

計画構想・概要（重要課題）

課題分類	「代替医療の科学的評価手法の開発」
課題名	「漢方有効性の検証方法の確立と応用展開」
代表者名	「丸山 征郎」
責任機関名	「鹿児島大学大学院医歯学総合研究科先進治療科学専攻循環器呼吸器病学講座血管代謝病態解析学」

研究の目標・概要

- 1. 研究の目的・目標:** 本邦における代替医療の中核である漢方薬の有用性を科学的に検証する方法論の確立を目的とする。本目的を達成することにより、生薬の有効成分の再発見、またオーダーメイド医療による特定の疾患治癒率の向上あるいは予防が可能となり、国家的な医療費削減戦略に前向きに寄与できる。また漢方医療後進国である欧米でも漢方医療に注目し研究を開始しているが、我が国こそがその科学的評価法を我々に先駆けて確立させる必要がある。
- 2. 内容:** オーダーメイド医療としての漢方製剤の有効性とその限界、西洋薬との併用禁忌などを予測するため、その代謝に関する遺伝子群の網羅的検索、および遺伝子プロファイリングシステムを3年以内に確立する。具体的には、生薬代謝酵素遺伝子のp450の多型性、発現プロファイルと臨床効果を副作用との関連性を調べ、データベース作成をおこなう。そこで得られた仮説をモデル動物で検証する。
- 3. 実施体制:** 様式1-5- に図示したとおりであるが、当附属病院で患者に漢方薬を投与し、経日的にその効果を評価するとともに、採血してリンパ球にトランスクリプトーム、プロテオーム、メタボローム解析する。

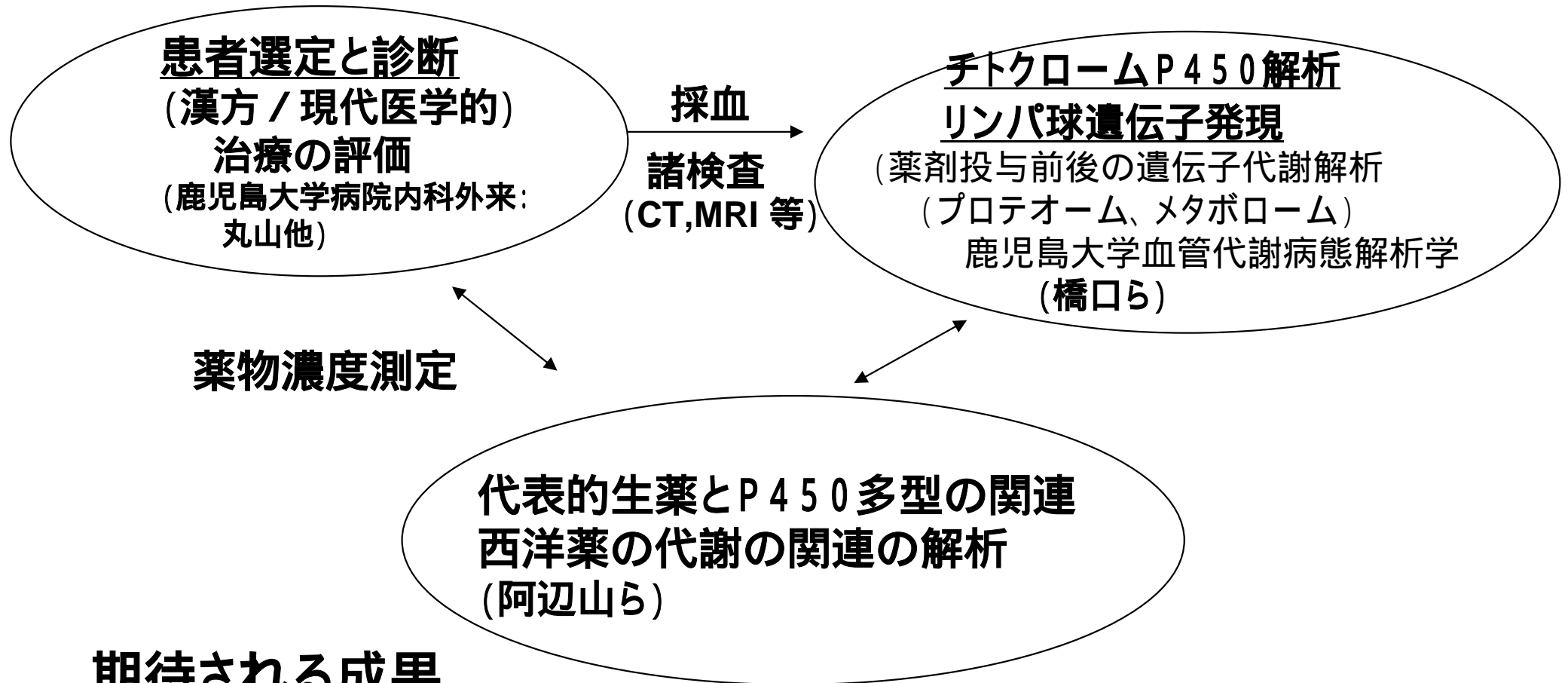
諸外国の現状等

1. 現状：漢方医療後進国である欧米でも、代替医療の評価の一環、あるいは新規薬剤の開発の1方法として、漢方薬に注目し始め、ハーバード大ほか、6校に講座が新設されて研究を開始している。しかし日本は、すでに漢方使用の歴史は古く、それに西洋薬と併用の歴史は長いので、日本こそ、研究をリードしうるアドバンテージがあり、かつその期待も大きい。

研究進展・成果がもたらす利点等

漢方独特の概念である「証」の一端の科学化を期待しうる。それにより真のレスポンスにのみ薬剤が投与しえ、医療費節減になるばかりか、西洋薬との併用の相乗効果、あるいは禁忌などを明らかにしうる。結果として新たな統合医療の展望が開けてくるものと期待される。

研究体制図と方法の概略図



期待される成果

- (1) 生薬の代謝の個人差をP450多型性レベル解明
「証」の分子薬理的基盤
- (2) 無駄な漢方薬の投与、副作用の防止
- (3) 西洋医学と漢方の真の統合の展望が開ける。

漢方有効性の検証方法の確立と応用展開

